

スパーク放電発光分光分析法による鋼材の迅速高感度分析

1.概要

鋼材を固体あるいは板状のまま※分析することにより、19成分の定量値が高感度・高精度かつ短納期で得られます。

※分析試料形状目安(平面として):15mm角、15mmφ、厚み10mm以上(薄板試料の場合はお問合せ下さい。)
 ※試験片の加工についても、ご相談ください。

2.分析可能成分と定量下限(鋼材)

分析成分	定量下限 (mg/kg)
Ti,Al,B,La,Ce,Ca	1
C,Si,Mn,P,S,Cu,Ni,Cr,Sn,As,V,Mo,Nb	10

3.測定原理

分析試料と発光電極(W:タングステン)間でスパーク放電させ、励起発光した光(輝線スペクトル)を回折格子で分光し、スリットを通して分析成分毎の光強度を検出器(光電子増倍管)で測光し、各成分の定量値を検量線から算出します。

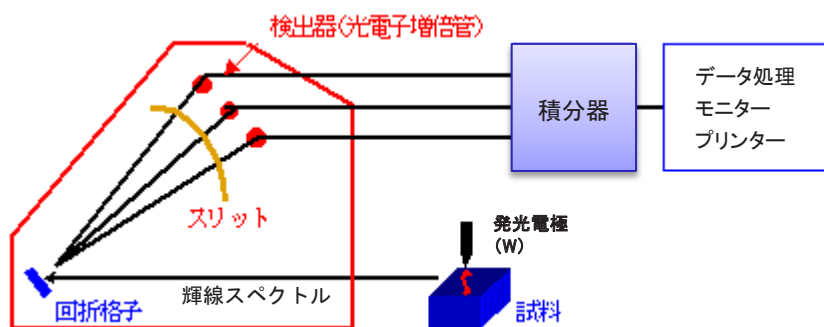


図.測定原理イメージ